

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	第3回 入間市旧黒須銀行保存活用基本計画策定検討市民会議
開 催 日 時	令和2年1月23日(木) 午後2時00分 開会・午後4時00分閉会
開 催 場 所	入間市博物館 会議室
議 長 氏 名	博物館副館長
出席委員(者)氏名	荒牧澄多、中林敦子、佐藤将之、天野真治、春名恭一、繁田進
欠席委員(者)氏名	平田和雄、芹沢勇、滝沢文夫、繁田剛
説明者の職氏名	石川副館長、大久保主幹、加藤主幹、三浦副主幹
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(すべて公開) 1 開 会 2 部長あいさつ 3 議 事 (1) 報告事項 ①入間市文化財保護審議委員会「旧黒須銀行保存活用基本計画 (素案)」に係る検討について まとめ【資料10】 (2) 協議事項 ①旧黒須銀行保存活用基本計画(素案) 【第1回会議 資料4】 【資料4-2】 【資料11】 4 基本方針 5 保存修理計画 6 活用計画 4 その他 5 閉 会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	0人

<p>配 布 資 料</p>	<p>・次第</p> <p>【資料10】入間市文化財保護審議委員会「旧黒須銀行保存活用基本計画（素案）」に係る検討について まとめ【市民会議資料】</p> <p>【資料4-2】旧黒須銀行保存活用基本計画（素案）</p> <p>※【第1回会議 資料4】1～3の内容に第2回会議で出された意見を反映したもの。</p> <p>【資料11】旧黒須銀行保存活用計画（素案） 計画構成</p>
<p>事務局職員職氏名</p>	<p>・教育部長 新見輝明 ・教育部次長 関谷佳代子</p> <p>・博物館館長 加藤保夫 ・同副館長 石川勝己</p> <p>・同主幹 加藤公章 ・同主幹 大久保卓</p> <p>・同副主幹 三浦久美子 ・同主任 平田光洋</p>
<p>会議録作成方法</p>	<p>要点筆記</p>

会議録（２）

議事の概要（経過）・決定事項

3 議事

（１）報告事項

- ①入間市文化財保護審議委員会「旧黒須銀行保存活用基本計画（素案）」に係る検討について まとめ
- ・事務局より【資料１０】について説明を行った。
 - ・報告①について各委員より意見・感想等無し。

（２）協議事項

①旧黒須銀行保存活用基本計画（素案）の内容について

- ・【第１回会議 資料４】及び【資料４－２】を見ながら、前回に引き続き素案の各項目について意見交換を行った。
- <前回会議の検討内容と【資料４－２】での変更点について>
- ・前回会議で出された意見を事務局で検討し、【資料４－２】を新たに作成した。変更点についてはアンダーラインを引いてある。
 - ・「１ 計画の趣旨（１）黒須銀行の概要」は１枚に収まる程度で追記している。
 - ・「横浜の大谷嘉兵衛」「東京の長井利右衛門」に関する記述を追加。その際、「西村茂樹」に関する記述も必要と思われたので追加してある。
 - ・「その経営理念が現代にも通じる」という部分や銀行の歴史的背景の部分は前回の意見をもとに追記した。
 - ・旧黒須銀行周辺の茶舗や織物工場に関する記述を追加したが、これは文化財保護審議委員会が出された意見をもとに追加した。具体的な店舗名は記載していない。
 - ・「（２）計画策定の趣旨」の中に「入間市都市計画マスタープラン」について加えた。また「市民からも早期の復元修理を望む声が寄せられている」という一文は、従来から寄せられているご意見やアンケート結果などに見られる事から追加した。
 - ・「２ 施設の概要」に「（７）文化財の指定理由」を追加した。指定書内に記載されている指定理由の最後の一文を、ほぼそのまま入れてある。
 - ・「３ 現在までの経緯」を「３ 黒須銀行と本店建物の歴史」に変更した。
 - ・「茅葺の商家」という記載を『黒須銀行史』の内容に基づき「豪農某氏の茅葺の住宅（質屋）」とした。「豪農某氏」の名前については裏付け史料が無かった。
 - ・明治４２年の記述、「新営業所」を「本店」と変更した。
 - ・大正１１年の１月に武州銀行に合併されたと記載されているが、『武州銀行史』では６月になっているという事なので、後程史料を確認し、訂正する予定である。
 - ・「（１）黒須銀行の概要」で紹介されている建物については周辺図の中に入れてはどうかとの意見があったので、A～Jの記号で地図上に落としした。また、古地図を併記してはどうかとの意見もあったが、古地図のデータをそのまま基本計画案の中に入れるのは難しかったため、周辺図に昔からの道を落とし込む形にした。
 - ・周辺図がまだ見づらいので、１ページを使う形に拡大する予定である。

議事の概要（経過）・決定事項

【内容に関する意見・質問】

- ・武州銀行に合併された日付について補足。『翠軒自伝』には1月に合併したとあるが、大正10年の11月に大蔵省の監査が入った後、合併交渉で揉めたという記録があるため1月では早すぎる。『武州銀行史』には6月とあるのでそちらの方が正しいとみられる。『翠軒自伝』は口頭で語られたものを書き写した本なので、思い違い等あったのではないかと思われる。
- ・冒頭に登場する日本弘道会は現在も公益社団法人として存在している団体のようだが、現存する団体名から文章が始まるのはインパクトが強すぎるのでは。
- ・反社会的組織に日本弘道会と似たような名前の団体があり、最初に登場すると勘違いされるのではないかという懸念もある。

⇒冒頭ではなく、別の所に記載するよう変更する。なお、日本弘道会は似た名称の反社会的組織とは全く別団体である。日本弘道会の名を事実として記述しないとあえて隠しているような印象も与えるため、どこかには入れたい。

- ・日本弘道会にこだわらず、「「国民道徳論」を唱えた西村茂樹」などと記載しても問題ないのでは。記載した上で目立たなくしたいのなら註釈で記載してはどうか。
- ・西村茂樹に関する内容が増えると、他の人物についても説明する必要が出てしまう。註釈を入れるならば、他の人物についても入れた方がバランスは良い。

⇒出された意見をもとに事務局で再度検討し、次回の会議で提示する。

<【資料11】について>

- ・前回会議で出された意見をもとに、計画の構成を樹系図状に並べて【資料11】を作成した。計画の構成は西洋館の基本計画にならって章立てしている。
- ・まず、3つの基本方針があり、そこから各計画へつながる形となっている。太字は計画の内容を簡潔に短い言葉でまとめたもの。
- ・活用計画が3つに枝分かかれし、その下の階層でまた合流してから、一般公開・展示・イベント・貸し出しの4つに分かれるが、最下層の部分には活用計画の3つの考え方がそれぞれ入ってくるのでこのような形になっている。
- ・前回会議では、計画そのものを樹系図で表せるような形に変えてはどうかとの意見もあったが、事務局としては、素案で示した形で進めていきたいと考えている。

【内容に関する意見・質問】

- ・例えば「にぎわい」という表現について、月に1度、年に1度イベントを開いて、そこに人がたくさん集まれば賑わっているように見えてしまう。ここで示す目標が、そうした非日常的な1日だけ打ち出されるものなのか、日常的にいつでもアクセスできる環境において打ち出されるものなのか、活用する頻度のようなものを加えて、今後のために何らかの道筋をつくっておくべきでは。
- ・例えば「地域に開かれ幅広い世代に親しまれる場の創出」という部分が強いのであれば、様々な世代が来やすい夕方に公開するなど、日常生活の中で行きやすい場所にするための目標が必要では。

⇒復元後の建物公開の方向性を、非日常的なものにするか日常的（定期的）なものにするか

議事の概要（経過）・決定事項

のにするかについては、まだ十分に煮詰められていない部分である。今後、当会議を進めていく中でも「（3）活用内容」の所などで話しあっていきたい。

- ・活用内容の中に「啓蒙活動」を加えてほしい。

⇒「9 計画の実現に向けて」「①建物の認知・理解度の向上」の中に広報や啓蒙活動について触れている部分がある。今後の議論の中で、他の活用計画内に入れるべきかどうか検討していただきたい。

< 4 基本方針 について >

- ・基本方針は3つの柱からなる。先年度の庁内検討委員会で話し合った内容をもとにまとめたものである。①は銀行そのものの歴史、②は建物としての歴史、③は黒須地区との関わりという分け方になる。

【内容に関する意見・質問】

- ・行政目線の項目が多く、市民がどう関わるのかを示す内容が弱い。建物を市民がどう使いこなすか示す項目を加えるか、項目を増やせないなら③に加えてはどうか。
- ・ワークショップでも出たが、市民が集える空間を前面に出し過ぎるのはどうか。①②をベースとし、その上で市民が集えるという話で進めたほうが良いのでは。
- ・旧黒須銀行に誇りを持って理解してもらうのは重要な事。その上で市民が集えるという視点も加えて考えてみてはどうか。
- ・例えば、西山荘ストリートのような形こそ市民がくつろげる場所であると感じる。それを考えると、旧黒須銀行は集いの場としては弱いのでは。
- ・建物だけではなく建物裏の倉庫跡など敷地全体の活用方針をイメージできるよう、活用方法としてあげた言葉につながる一文が必要かと思う。
- ・③は旧黒須銀行そのものというより地域との連携について打ち出している。今の議論の内容は旧黒須銀行そのものに対する市民の関わりという点なので③とは分かれるように感じる。②の方が建物の活用に関わる部分なので②に入れては。

⇒事務局で検討して内容を修正する。

< 5 保存・修理計画 （1）現状 について >

【内容に関する意見・質問】

- ・「土蔵造り銀行」という単語は無いと思う。 ⇒「土蔵造りの銀行」と変更する。
- ・旧黒須銀行は平成2年に指定文化財に加えられているが、入間市として、文化財の保存・維持管理についての考え方は。

⇒指定文化財は後世に伝えていくために処置をしていく方針である。旧黒須銀行の場合、保存や維持管理だけではなく活用についても意見をいただき、改修計画を立てて、それを実行していくという流れで進めている。また、旧黒須銀行は、かなり状態が悪いため、適切な改修・修繕が必要であると認識している。

- ・「3棟の倉庫」と記されているが、昔の航空写真などを出して説明した方が分かりやすいのでは。また、「そのうち1棟について図面で記録した」「部品を保管してある」といった記載が必要では。

⇒文章量や写真添付スペースの都合なども考慮しながら事務局で検討。

議事の概要（経過）・決定事項

- ・「蔵造り」という表現と「土蔵造り」という表現はどう違うのか。
⇒構造形式としては「土蔵造り」を使う。「蔵造り」は「土蔵造り」の構造を利用した土蔵ではない別用途の建物を指す。基本計画内に両方の表現があるのは良くないのでどちらかの名称に統一した方が良い。
建物構造の名称については、今後市民にどういう風にアピールするかで決めてはどうか。関東地方だと蔵造りの方が通じやすいようである。
- ・黒須銀行が売りにしたいのは「土蔵造り」ではないか。「蔵造り」は川越のイメージが強いと思う。戦略的に見ると競合しない名前の方が良いのでは。
⇒他からも意見を聞きながら、事務局で検討して名称を統一する。

< 5 保存・修理計画 (2) 保存・修理方針 について >

【内容に関する意見・質問】

- ・修理に関しては、半解体の際に新たな知見が出て設計変更が発生しやすいので、検査部門と良く協議してほしい。設計変更はあたり前と考えておいた方が良い。
- ・①の所などに「解体修理中新たに発見された所見について柔軟に対応する。」といった文章を加えておくと、工事担当部門を説得する1つの材料になるのでは。
- ・「しつつ」や「できる限り」といった文章はやめてほしい。いい加減にやって計画通りにできなくても方針にあるからいいと思われてしまう。
- ・表現を工夫して、例えば①については、「価値を損なわないようにしつつ、」ではなく、「価値を取り戻し、」といった書き方にしてはどうか。
⇒①と③の曖昧な表現について、事務局で見直して書き直す。

< 平面図（現状・改修後） について >

【内容に関する意見・質問】

- ・「鉄骨控え壁」は壁状の支えである。計画では柱状の支えとなるので「鉄骨控え柱」としたほうが良い。なお、通常2階にも補強が入るはずなので、2階にも柱を図示した方が良い。 ⇒図面を変更する。
- ・階段はどのように変えるのか？
⇒営業室内の階段は調査の中で得た情報をもとに逆方向に変える予定である。
- ・旧重役室兼応接室は直すのか。 ⇒修繕を予定している。
- ・男子トイレが女子トイレより広くて奥まった所にあるが、逆の位置にしたほうが良いのではないか。また、多目的トイレはどこから入るのか。
⇒多目的トイレの扉は南物置側に付ける予定であったが、指定文化財部分の壁を壊さないよう位置が変わるとみられる。部屋割りはまだいくらかでも変更できるので、今回の意見などを踏まえながら検討していきたい。なお、基本計画については具体的な設計案が固まっていないので現状の図面を使っていきたい。

< 6 活用計画 について >

【内容に関する意見・質問】

- ・元にある精神「道徳銀行」を大事にしてほしい。こども向けに渋沢栄一の「論語と算盤」を教える本などもある。そういう部分をベースにして精神的な部分

議事の概要（経過）・決定事項

- が全体にあるような活用をしてほしい。黒須銀行が具体的に実践していた事を紹介するコーナーを増やしてはどうか。
- ・黒須銀行が公共工事などに寄付した具体的な額など分かれば展示してはどうか。
⇒現在史料を集めてなるべく具体的な黒須銀行史が描けるよう検討中である。
 - ・活用計画は何年何月時点での決定事項となるか。
⇒令和2年の9月から10月頃に出る予定。
⇒「（1）現状」には平成30年度までの実績しかないので、最終的には令和元年度の実績も盛り込む必要がある。
 - ・ワークショップを「公募市民によるワークショップ」と記したほうが良いのでは。
 - ・ワークショップの結果については計画に載せるか。載せないのであれば「ワークショップの結果を盛り込んで作成している」と一筆入れたほうが良い。市民の意見を取り入れているアピール、参加者の意見も反映しているアピールになる。
 - ・「（3）活用内容 ①一般公開」について、暫定活用というか当面活用的な内容が混じっている。最終的にどういう公開日数でやっていくかという予定を検討し載せていく必要がある。
 - ・「西洋館と同時公開を原則とする。」とあるが、ワークショップ内ではもう少し日常的に活用したいという意見があった。その意見がまだ反映されていない。
 - ・旧黒須銀行の公開日を西洋館に合わせるのではなく、旧黒須銀行の公開日にあわせて西洋館の公開日を変えていくくらいの方向で考えてはどうか。
 - ・公開日についてはある程度理想的な目標を入れ、其の上で暫定的な活用について記載するという風に改変してはどうか。 ⇒事務局で検討して、次回提示。
 - ・ワークショップに参加した時、地元の人には旧黒須銀行に博物館的な要素を求めているような印象を受けた。公民館的な活用とどう折り合いをつけるかが重要では。
⇒旧黒須銀行は狭い。現在、営業室に入ったらむかしの銀行に入った印象を受けるように建物内を整え始めている。しかし、最も広い営業室を活用に使う時に、家具の移動等どうしていかかが悩みとなる。
 - ・基本的な計画とするなら広義に判断できる形にしては。あまり具体的な事は書きすぎない方が良いのではないか。
⇒具体的な活用については今後計画が進んできた時に改めて検討していく。
 - ・展示が貧弱な部分や朽ちている部分は直したい。また、展示の量も増やしてほしい。年表を充実させ、写真も増やしてほしい。黒須銀行の何に価値があるのかという所が分かるようにしてほしい。渋沢栄一に関する部分や繁田家所蔵の扁額についてもっと詳しく出してもらえたら嬉しい。
⇒計画策定後、具体的な部分を決める際、今回の意見も踏まえていきたい。
 - ・黒須銀行の外観をむかしの状態に戻すという内容はどこに入るか。また、電話ボックスや歩道橋の撤去に関する内容はどこに入るか。
⇒外観については「5 保存・修理計画 （2）保存・修理方針」①の「明治から大正時代の姿に復元する」に含まれる。電話ボックスと歩道橋については

議事の概要（経過）・決定事項

「9 計画の実現に向けて ③建物をとりまく景観の改善」に含まれる。

※「（2）活用方針」の①～③は事務局案のままで問題なし。

4 その他

＜河原町歩道橋撤去の理由について＞

- ・前回会議で河原町歩道橋撤去の理由について調べてほしいとの意見があった。理由は、国道16号線の拡幅整備（4車線化）に伴い歩道橋が支障となることから撤去され、歩道のバリアフリー化のため横断歩道化されたとの事である。
- ・また、埼玉県管理の横断歩道橋について、平成26年度の安全基準測定で判定基準4とされた歩道橋については危険なため解体されたという例もある。今年度も歩道橋の点検をしており、旧黒須銀行前の歩道橋についても実施された。結果は3月以降に公表されるため、注視していく。

＜旧黒須銀行付近の浸水状況について＞

- ・前回会議で旧黒須銀行付近の浸水状況を確認したいとの話があった。
- ・ハザードマップでは浸水地域に含まれている。繁田醤油については浸水被害があったようだが、旧黒須銀行では目立った浸水は無いように思われる。なお、建物裏に土蔵が建っていた時代にはその床が濡れた事例もあった。雨漏りなのか床上浸水なのかかわからない。明治時代の写真を見ると、現在の方が店の正面の地面や道路面が上がっている。この影響か、水が建物内に流れる事は少ない。

⇒雨水の浸水に関しては、外構工事で対応できるよう、基本設計の際、設計士に検討してもらおう。

＜2月の旧黒須銀行関係の予定＞

- ・『広報いるま』2月1日号に特集記事が3ページ掲載される。
- ・旧黒須銀行が今年の2月11日で創業120周年を迎える事を記念し、2月22日（土）午後1時より、文京学園島田昌和理事長に渋沢栄一との関連から黒須銀行に関してご講演いただく。黒須公民館で実施。現在申し込み受け付け中。

※ 次回会議は3月13日（金）午後2時00分から実施。会場：黒須公民館

5 閉会